

埼玉退教 だより

第 3 号

発行日 2024/9/20
発行者 石川博 編集責任者 山田正美
発行元 330-0062 さいたま市浦和区
仲町 3-13-10 ヤギシタビル 4F
e-mail:yamadamasami015@gmail.com

対面実施決定 埼玉退教定期総会 10・18 開催

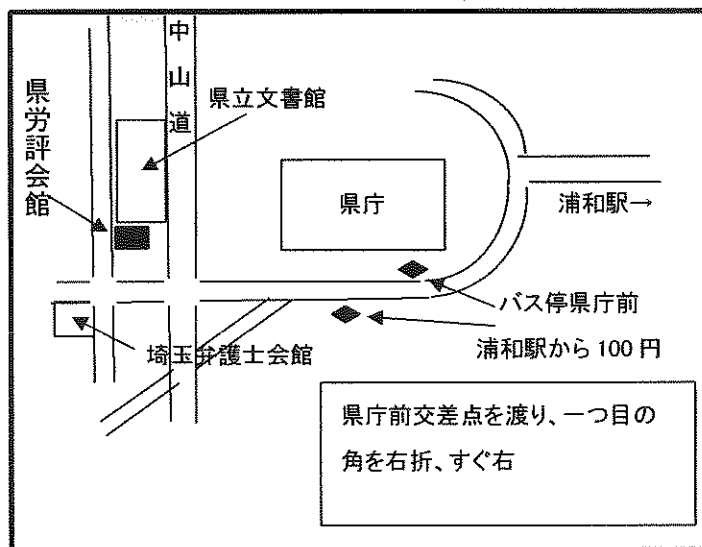
2020年から続いたコロナ禍の4年間、埼玉退教は通常の活動が難しく、ようやく前年度から常任委員会体制を再構築しましたが、「紙上総会」という形式で会員の皆さんに返信はがきで意見を求めるなどの変則的な運用が続いていました。

新型コロナも5類移行ようやく今年度から対面で会員の皆さんお集りの上で開催できる運びとなりました。多数の皆さんのご参加をお願いします。

日時：10月18日（金）13:00～15:00

場所：県労評会館（右図参照）

同封の議案書をご持参下さい



地公退定期総会、子育て支援財源で論議

7月26日、地公退（地方公務員退職者協議会）の定期総会がおこなわれました。埼玉退教の加入する日退教（日教組退職者）、自治退（自治労退職者）、全水道退（全水道退職者）、都退協（東京都退職者協議会）の四者で構成している組織です。地公退会長は日退教の竹田会長が務めています。

さて今年の地公退総会での論議では社会保障問題、とくにいわゆる「次世代支援」が大きな問題になっていました。今国会ですでに「子育て支援法」が成立しましたが、子育て支援金のための財源に既存の社会保障制度の賦課・徴収ルートを活用することになっています。議案書では、子育て支援のために社会保障制度を財源にするという「全世代型社会保障構築会議」の提言に対しては「積極的に評価す

る」と記されており、これに対して論議が集中しました。「子育て支援が必要であるなら、税金を投入するべきで、社会保険料負担をさらに重くするべきではない」という意見が続きました。これに対して、事務局長は「税金は政治情勢によって大きく削減される可能性がある。5年で43兆円という防衛費の増額にみられるように、時々政治情勢で支出が不安定になりがち。ところが社会保険は財源が安定しており、事業主負担も半分あるので財源確保という点で政治の影響を受けない安定財源として確保できる。」と述べました。

社会保障制度に関しては理解に難しい面がありますが、退教として年金をはじめ強い関心をもって、制度のあり方を見ていく必要があるでしょう。

Peace Action 5・15 平和行進

5月17日(金)～19日(日)に「5・15沖縄平和行進」が実施されました。埼玉県代表団に加わり参加した退教会員の田島さんから、参加記を寄稿してもらいました。



那覇・琉球新報ホールで結団式

沖縄の日本復帰52年目、沖縄には広大な米軍基地が今なお残されています。

5月17日(金)1日目、埼玉県代表団は自治労を中心に総勢25名での参加でした。初日の17日夕方、沖縄平和行進結団式は那覇市の琉球新報ホールで開催され、労働団体や市民団体など県内外からおよそ600人が集結しました。開会行事では、あいさつに立った平和・人権・環境フォーラム共同代表の丹野久さんは、「全国各地で強固な平和運動を確立し、戦争のできる国づくりは許さない、全世界の国民が等しく、恐怖と欠乏から逃れ、平和のうちに生存することを目



市民・県民の声援を受けながら行進

児玉支部 田島晴彦

指し、共に頑張りましょう」と述べました。

5月18日(土)2日目、雨天が心配されましたが曇天の蒸し暑さの中、一同は宜野湾市役所に集合し出発式を行いました。その後参加者約2400人は2グループに分かれ、普天間基地を1周する包囲コースになって、(毎日新聞ニュース:喜屋武真之介さん撮影)

「とめよう日本の軍事大国化」をテーマに午前市役所をスタートして、宜野湾市立グランドまでデモ行進をしました。市役所での出発式から右翼の街宣車が爆音を立ててデモ行進を妨害していましたが、私たちデモ隊は警察に見守られながら、また市民や県民から励ましや歓迎の声を受けながら、毅然とした態度で7km程の道を歩き通しました。

○糸数アブチラガマ

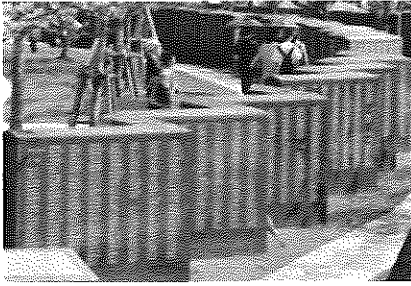
(ガマとは、珊瑚礁が隆起して長い間に自然にできた洞窟)この中に懐中電灯なしでは歩けない程の蒸し暑い暗闇で、戦時中負傷した日本兵や医師、看護婦が共に米兵から身を隠しながら戦っていた場所です。ここでは十分な食料や医療道具、薬がない状態で、傷病兵を看護し、看護



糸数アブチラガマのパフレットより

というより手当てされない状況にありました。またそこでは日本軍の調理や食事、糞尿、死人の始末、息が詰まるほどの悪臭、うめき声の中で兵士は身を隠していました。想像を絶する沖縄戦の悲劇がありました。

○県立平和記念資料館・平和の礎（いしじ）



旧資料館は1975年開館、2000年4月に新資料館として開館。住民の目を通して沖縄戦の歴史的教訓を後世に伝えるために設

立された。1995年6月に建設された「平和の礎」は沖縄戦の犠牲者となった日米や諸外国の兵士、沖縄県民の名前が刻まれていました。しかし当時慰安婦とされた女性もいたが、彼女やその子孫の名誉のために、あえて名前をきざまない朝鮮の女性たちがいました。

○ひめゆりの塔・平和資料館

沖縄師範学校女子部と県立第一高等動員され犠牲となった職員・生徒たちの慰霊碑がここにあります。

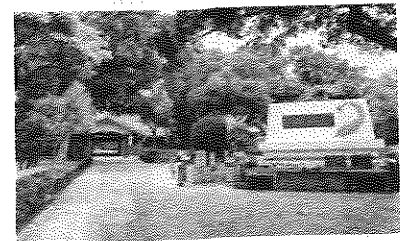
6月18日、学徒隊に解散命令が下りました。第三外科壕では、脱出の直前（19日未明）米軍のガス弾攻撃を受け41名、教職員5名が犠牲となりました。



○戦争のない世界を

今回の平和行進を通して、当時の日米兵・そして戦争にかり出された朝鮮の人々、沖縄県民の4人に1人が尊い生命が犠牲になりました。戦争のない世界を作り上げることが私たち地球に共に生きる人間の使命であることを再認識し、平和の大切さを広めていきたいと思います。

※一部写真はメディア報道された作品を載せました。



盧溝橋事件はなぜ全面戦争へと拡大したのか

7・7記念集会 山田朗明治大教授 講演会

1937年7月7日は日中戦争の引き金となる盧溝橋事件が起きた日である。毎年、この日は「不戦兵士を語り継ぐ会」、「日中友好8・15の会」などが主催し、記念集会が行われている。今回は明治大学の近代日本史専門である山田朗氏の記念講演が行われた。山田氏は「明治以降の日本の最大の仮想敵国はロシアであった。ロシアに対抗するための利益線として朝鮮を確保しようとして日清戦争に勝利したが、それが逆にロシア南下を呼び込むことになった」と述べ、日本が満州事変を起こし、中国との対立を深める背景にはロシア（ソ連）との軍事的対立の視点立が重要であるという指摘であった。仮想敵国（中国・北朝鮮）に対抗し軍備を拡大してい

くことが、結果的に実際の戦争に結びつく。現在の日本が直面している国際情勢においても同じことが言えるのではないか。私達は過去を振り返りながら、反戦平和の道を追求しなければならない。そんな思いを強くした記念集会であった。

酷暑にも関わらず会場には80名（退教会員約10名）の参加者があり、講演後は活発な質疑や意見交換もあり、大盛況であった。



比企支部 文化展比企野 来場者500名超える



比企支部では、支部長を含めて文化展委員から支部役員に至るまで、会員相互の交流の広場として発展させることを最大の目標として行われてきています。今回、東松山市やその近郊より6日間で延べ512名もの来館者がありました。

出品作品は、写真・書・てん刻・絵手紙・絵画・手工芸・木彫・陶芸・文芸・生け花と多岐にわたり、総数108点の作品展示がありました。

これらは、個々の会員が趣味・特技や興味・関心を活かして自分の「思い」を形として表現したものです。

文化活動を大事とし、重視してきた同好会活動

退教会員の交流・文化活動をよりやりやすくするために、会員による自発的な同好会活動を大事にしています。

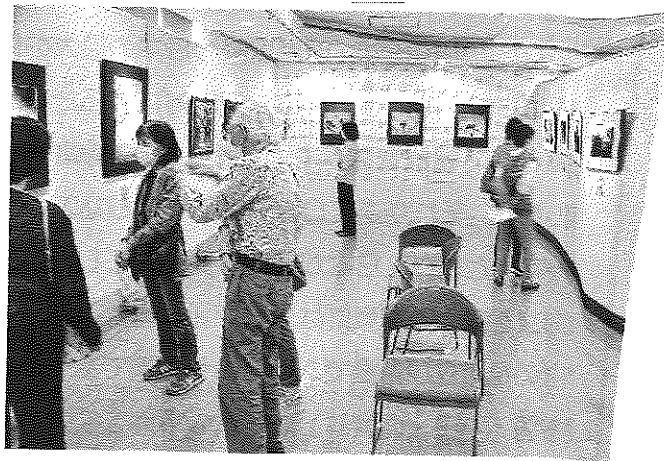
今まで、陶芸・版画・囲碁・山野草・絵手紙・カラオケ・篆刻・書道・写真の各同好会活動が行われてきました。現在では、写真・篆刻・あおぞらの3同好会が活動しています。

文化展活動を通して

文化展「比企野」は比企退教の中心的活动として継続されてきています。年に一回の取り組みですが、計画→準備→展示会と毎年行うことにより、会員どうしの連帯感が強められています。また、参観された会員や地域の方々との出会いの場ともなり、大いに交流が深められています。

これからも、個々の会員が文化展を通してより多くの仲間と結ばれながら、自分の好きなことに取り組み、楽しみながら、少しずつ向上していき、生き妻のある生活につながればと思っています。

(文化展実行委員長 島本良典)



連載

世界食い倒れ紀行(2) バングラディッシュ

+呑んだくれ

赤上光司(高校支部)

私は外国に行くと、したいことが3つある。①その国の最高のレストランの食事を取る、②その国のスラム街に行き、そこの食事を取る、③その国で創られたオリジナルの酒を呑む。この3つが、やりたい。

スラム街は娼婦村の隣

インドのコルカタから陸路でバングラディッシュに入ったときのこと。タクシーに乗って、スラム街を頼んだ。タクシーの運転手は勘違いして、私が着いたのはスラム街ではなく、売春地帯だった。小さな村でそこにいる女性は、全て娼婦なのである。私は娼婦村を一周して、宿を覗いたりした。娼婦はほとんど中学生くらいの少女で、着飾りもせず普段着、楽しそうにおしゃべりしている。私は、「ここより学校の方が楽しいんだよ」と、心で呼びかけた。娼婦村を出るとスラム街だった。

売春地帯やスラムは、都市の辺境に発生するので、隣り合わせになるのだ。日本なら、吉原と山谷が好例、そこは、あの世とこの世の境でもある。

度数は低いがこれも酒

スラム街を歩いていると、倉庫で、騒いでいる連中がいる。彼等はバケツを持っていて、それを飲んでいる。明らかに酒である。私はすぐ、その倉庫みたいな酒場に入った。酒はバケツ一杯、50円くらいだった。酒場の客達は、ツマミもなく、バケツをがぶ飲みして、舞い上がっている。私

はベンチに座り、彼等に混じって、バケツの酒を飲んでみた。不味いな、と思った。薄くて、酸っぱいのだ。アルコール度数は2度か3度だろう。これなら、がぶ飲みしても、納得する。

でも、私は、実は、世界の半数の人々は、この酒を飲んでいるのではないか、と思った。日本酒のような、度数20度(原酒)の酒は、高い技術を要する。バングラディッシュのスラム街に、そんな技術はない。以前テレビで、アフリカの、噛み噛み酒(處女が噛み酔させる)を見たけど、アレも度数は低だろう。これが世界の半数で飲まれている酒なのだ。瓶詰されないから、誰も飲めないし、知らないけど。

この酒はバケツで呑め

どんな酒にも神は宿る

私は「全ての酒には神が宿っている」と思っている。よく、純米酒しか呑まないという人がいる。でも純米酒以外にも、それを呑み、それを創る人はいるのである。その酒は旨く、神が宿っているのである。私はこのバケツの酒にも神は宿っている、と思った。みんな、美味そうに呑み、騒いでいる。私はバケツの酒を何杯か呑んでみた。だんだん旨くなる。味に馴れて来たのだ。やっぱりこのバケツの酒にも、神は宿っていた。

私はバケツ酒屋を出て、少し酔いかげんで、スラム街をタクシーで出た。今日もいい酒を呑み、こころで酒の有難さに、感謝した。

2024年度 会費納入のお願い

埼玉退教の活動は皆さんからの貴重な会費によって支えられています。すでに2024年分の会費を納入された方を除き、今回の発送では会費納入用の「払込取扱票」が同封されていますので、郵便局にて払込みをよろしくお願いします。

多病息災

囲碁と脳梗塞

退職高齢者の皆さんにとって、病気は共通の話題。場合によっては深刻な事態になりますが、なんとか折り合いをつけて毎日を送っている人達もたくさんいます。このコーナーではそんな会員に登場してもらって、病気との付き合い方を紹介してもらいます

脳の損傷は一生のつきあい？

十三、四年前、脳梗塞を発症してしまった。医師に、MRI 検査の写真で脳の左側に損傷のあるところを見せてもらった。それは小さな染みのようなものだった。私は軽傷で済んだらしいが、おかげで左目がおかしくなり右手、右脚が少し不自由になった。人間は首のところで神経系統が大きく交差しているということだが、そのことが人体実験のようにして証明された訳である。

いつごろ治るのかと医師に問うたところ、彼は少しため息をつき、

「リハビリで運動機能は改善されるかも知れませんが、脳の損傷した箇所は、元に戻ることはありません。損傷した箇所とは、一生の付き合いです。」と答えた。私は暗澹たる気持ちになった。

心筋梗塞はある意味一瞬

その四年後、今度は心筋梗塞を発症してしまった。勤務先の学校で倒れ、救急車が呼ばれる騒ぎとなった。救急車を待つ間、薄れゆく意識の中で、死ぬことはこんなにあっけないものなのかと思った。病院に到着し、緊急のカテーテル治療を受け、一命を取り留めた。

今から考えると、心筋梗塞は心臓の問題だけに生死の問題だが、人生においてはほんの一瞬の出来事ではない。しかし、脳梗塞の場合はそうではなかった。脳の問題だけに、軽傷でも、その後の人生に暗い影を落とす。

その一つが囲碁である。私は囲碁を趣味にしているが、脳梗塞発症後、しばらく碁石を握らない時期があった。打てるとは思わなかったし、打つ気

になれなかったのである。1年ぐらいて恐る恐る昔なじみの碁会所に顔を出し、打ってみた。すると、

「だいぶ腕が落ちましたね。」かつての碁敵はそうは言わなかったが、顔にそう書いてあった。悔しい気持ちで、脳梗塞が発症したことを告げると、

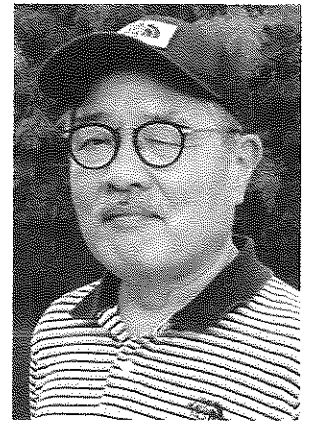
「あ、脳梗塞ですか。実は私も脳梗塞だったんですよ。ほら、1年ぐらいこの碁会所に顔を見せない時期があったでしょ」。あれ、そうだっけ、そんな時期があったっけ、と私は思ったが「はい」と適当に答えた。

「あの時はね、軽傷で済んだけど、脳梗塞だったんですよ。でも大丈夫、一生懸命リハビリすれば、軽傷なら、必ず回復します。私がいい例です。囲碁だって元のように打てるようになりますから。」本来は人のいい碁敵はそう言って励ましてくれた。

元の実力へ回復か

その励ましを素直に受け入れ、私は一生懸命碁に取り組んだ。その当時は、バス、電車通勤をしていたが、通勤の間中詰碁に取り組んだ。入浴時、就寝時には必ず碁の本を携えた。休みの日には、プロの碁を並べたりした。その甲斐あって、四、五年してやっと元の実力にたどり着いたような気がする。脳梗塞になっても、老人になっても、回復することがあるのだと、今実感している。

退教囲碁大会には毎年参加している。今年も参加の予定である。毎年楽しみにしている。



東島 修(高橋支部)



倉持光好 (南支部)

ジーン・シャープの平和主義

今、地球規模で考えると、軍事衝突をはじめ、様々な地域戦争、紛争が展開され、目を覆いたくなる状況です。平和どころか、こんな争いばかりの世界では次世代に安心してバトンタッチ出来ない焦燥感に襲われている方々も多いと思われます。

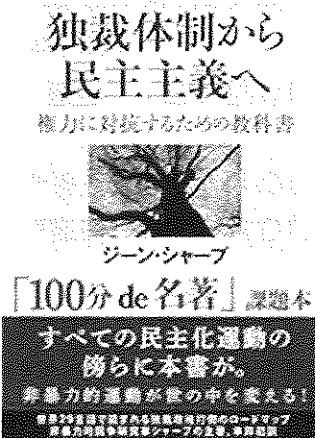
そんな世の中ですが、まだまだ、わが国ではあまり知られていないジーン・シャープについてご紹介したいと思います。

ジーン・シャープは、非暴力の平和主義者です。6年前に亡くなりましたが、最近注目されているアメリカ人です。NHK「100分de名著」でも昨年、取り上げられ、今年再放送もされています。

彼は、マハトマ・ガンディーの研究を起点に、独自の非暴力理論を体系化し、戦略的非暴力闘争を提唱しました。そして、アルバート・アインシュタイン研究所を設立し、非暴力闘争の提言・指導に尽力し、世界各地の民主化運動に大きな影響を与えました。

シャープは次のように語ります。「自由は誰かが与えてくれるものではなく、自らの手で勝ち取り、粘り強く護っていかなければならない。そしてその自由のもとで、格差是正など構造的暴力除去の問題に果敢に取り組む新しい民主主義の再構築を目指していきたいものです。」そして、理論の上に則った「非暴力行動198の方法」を提案しています。紙面の関係もありますので、6つの柱だけを紹介します。・非暴力抵抗と説得の方法。・社会的非協力の方法。・経済的非協力の方法(1)経済ボイコット。・経済的非協力の方法(2)ストライキ。・政治的非協力の方法。・非暴力的介入の方法。6つの柱について、具体的に書かれた198項目です。中にはどうかと思ってしまうほどのものもありますが、いやいや、徹頭徹尾考え抜かれたもので感心します。興味をお持ちの方は、下記の本をぜひお読みください。

ちくま学芸文庫「独裁体制から民主主義へ」権力に対抗するための教科書
ジーン・シャープ(瀧口範子訳)(950円+税)NHKテキスト(100分で名著)「独裁体制から民主主義へ」非暴力という「武器」
中見真理(545円+税)

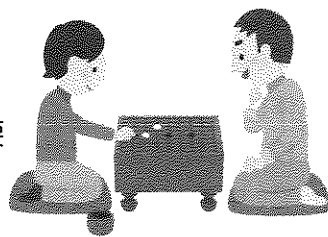


囲碁大会のお知らせ

本年も埼玉退教囲碁大会(沖松杯)・「生きがい支援協会共催」を下記の要領で開催したく計画しましたので是非、皆様に参加していただきたくお知らせいたします。

- ▲期日 10月4日(金曜日)
- ▲場所 熊谷市中央公民館(市民ホール)2階2-3の部屋
- ▲開催時刻 午前10時~午後4時 参加費無料 豪華昼食付 交通費支給

対局は少なくとも午前中2局、午後2~3局行い、Aクラス(2段以上)、Bクラス(初段以下)、それぞれ優勝、準優勝者を決定して賞品を出します。埼玉退教の囲碁大会に参加している方は、強くても自称4段が最高で、初段以下、初心者も多いですから、一日、囲碁を楽しんだり、おしゃべりして過ごしてください(申し込み方法、会場までのアクセスなど、議案書8頁を参照)



活動記録・行事予定

- 6月7日 日退教組織代表者会議
50周年記念レセプション
- 6月19日 総がかり行動
- 7月16日 退職者連合学習会
- 7月17日 退職者連合定期総会
- 7月26日 地方公務員退職者協議会定期総会
- 9月3日 日退教 第1回ブロック代表者会議
- 9月4日 地公退 高齢者集会
- 9月5日 退職者連合 全国高齢者集会
- 9月6日 第4回常任委員会(定期総会議案審議)
- 9月16日 サヨナラ原発集会(代々木公園)
- 9月19日 総がかり行動
- 9月20日 埼玉退教定期総会議案発送
『埼玉退教だより』第3号発送
- 10月4日 囲碁大会(沖松杯)
- 10月10日 五者学習会
- 10月11日 日退教 組織活動交流集会
- 10月18日 第33回埼玉退教定期総会
- 11月8日 第5回常任委員会
- 11月10~11日 福島学習の旅
- 11月18日 埼玉退教だより第4号発行

元埼玉高教組委員長 宮崎博臣さん

『倭の王たち』出版

元高教組委員長宮崎さんが、このたび『倭の王たち』と題した著作を出版しました。謎の4世紀といわれる古代史をテーマにした小説としてまとめられたものです。現在、宮崎さんは大阪府羽曳野市に在住していますが、ここは大小の古墳に取り巻かれた地域であり大山古墳のある百舌鳥古市古墳群とも至近。

宮崎さんは地の利を生かして日夜フィールドワークを重ね、小説の構想を練ったそうです。興味のある方はAmazonで検索すればすぐに出てきますので

ご覧ください。「試し読み」も第三章まで、かなり読むことができます。

(印刷版2460円 電子版500円)



8月22日、埼玉県の男女別学高校の共学化に関して、県教委は「結論」らしきものを出した。

「(各学校任せではなく県教委が)共学化を主体的に推進する」というものだ。具体的な対象校や実施時期などは全く触れなかったもので、中途半端で曖昧だが、共学化への一歩前進であることは確かだろう▲この間、共学化に反対する議論の中心は「別学校の良さを生かせ」「別学を選択肢として残せ」というもの。在校生、卒業生にとって母校を懐かしく大事に思う気持ちはあるだろう。それが共学化の議論と混同してしまい、メディアも一緒になって「高校生の意見を尊重しましょう」というメッセージを振りまいていた▲かくいう筆者は私立男子校出身。都立高のすべり



止めマンモス私立である。都立不合格だったから入学したわけで最初から凹んでいた。朝礼は学ランで真っ黒。13クラスで1学年650人、中学生もいて、2000人以上も男子がいてうんざり。それでも3年間まあ楽しく過ごせたのは友人が見つかりやすかったからだろう。思春期の友人は同性から選ぶことがほとんどだから、別学校は共学校の二倍の確率で「気の合うやつ」を見つけることができる。

しかしそれは単なる個人的感慨だ。▲「性別が入学資格」という別学校の差別性こそが議論の中心にあるべきなのだ。共学化に向けてまだ一波乱ありそうだ。「異性の目を気にせずのびのび」とか「伝統を守れ」とか、ズレた話ではなく、もう少し議論の深まりを期待したい(Y)